

## 「肝胆膵外科医をめざして」

帯広第一病院 研修医 青木 泰孝 (24期生)

同窓会の皆様、こんにちは。24期青木泰孝と申します。私は肝胆膵外科を目指し、帯広第一病院にて日夜研修に明け暮れています。帯広第一病院は合計303床であり、小規模ですが医局は一つ、内科・外科のDrがお互いを信頼し合っており、Drの年齢もほとんどが30代後半と若く、非常に活気あふれ、緊急症例にも果敢に挑んでおります。消化器系には特に力を入れており、2009年に最先端機器を備えた消化器内視鏡センターを開設し、地域の開業医からの紹介が急増しました。内科の常勤医は4人ですが、今や内視鏡検査は上部下部合わせて年間6,000件となっております。外科については東北大学の関連病院であり、常勤医(3年交代)が3人と出張医(大学院生2か月交代)が派遣され、年間500例超の手術を行っているため、北海道にありながらも東北大学の中でも有力な関連病院となっております。肝胆膵グループからのDr派遣があり、ここ最近では肝切除、肝門部胆管癌・門脈合併切除や膵頭十二指腸切除などの高難易度手術が毎週のように行われており、病棟がてんやわんやとなっております。また外科のトップが腹腔鏡を得意としており、ここ最近では腹腔鏡症例が急増しました。個人的には緊急手術はもちろん、ヘルニアやラバ胆は毎週必ず術者となっております。最近になって腹腔鏡補助下回盲部切除術を経験し、開腹では回盲部やS状結腸切除などを10例、これまでに外科研修で合計71例の手術を経験しました。また当院では術前には徹底した厳しいカンファレンスが行われ、術後には詳細な手術記録が要求されるため完成までに何度何度も訂正が行われます。一方で手術件数が多い分、麻酔科研修も充実しており、2か月間の研修では約150件の挿管を経験しました。内科研修でもプライマリの疾患の管理を学びつつ、半年間の間に内視鏡検査を

上部下部合わせて100件超の経験をさせていただきました。救急はもちろんですが、病棟管理についても当然の如く、殆どが研修医に任されており、終日オンコール状態です。なお当院では手技だけに偏らず、2年連続で日本臨床外科学会でのoralでの演題発表の機会を頂きました。時間が出来たら論文にも挑戦してみようと思います。本当に毎日毎日夜遅くまで働いておりますが、仕事は楽しく本当に充実した日々を送っています。自身が琉球大学に学士編入し、ある程度年齢のハンデがあること、それでも肝胆膵外科に対して強い思いがあることから、研修病院については、都会の有名病院ではなく、早いうちからトレーニングを積める施設を予め探しておりました。とあるDrの紹介で偶然出会った帯広第一病院でしたから、知り合いなど皆無、不安はありましたが、単身北海道に飛び込む決意をし、現在に至ります。今はここに来たことに全く後悔はありませんし、来年も初期研修の延長として、もう1年帯広に残ることにしました。今後もひたすらこの道を突き進んでいこうと思っています。来年は琉球大学の後輩が初期研修医として当院に来ることになっており、帯広第一病院がもっと面白くなりそうな予感です。



12時間耐久ママチャリレースにて